

おもしろ環境まつり 開催要項

1 名称

おもしろ環境まつり

2 日時 平成 30 年 12 月 2 日（日）10:00～15:00

3 場所 和歌山市みその商店街（和歌山市美園町 5 丁目アーケード周辺）

4 趣旨

ここ数年、異常気象が続いている。観測史上最高、という言葉が毎年のように聞かれる時代になりました。これまで経験しなかったような豪雨による不幸な災害も増えています。猛暑の影響も出ています。異常気象の頻発は、地球温暖化とともに気候変動による影響が大きいとされています。私達が暮らしやすく、災害の起こりにくい状態を再び取り戻すため、これまでもさまざまな活動の転換、試みが行われてきました。しかしこれらの試みは、効果を見るまでには長い時間が必要です。大人の世代から子供の世代へとバトンタッチしながら、人類の英知の結晶として、自然と共生した人間社会を実現しなければなりません。環境ビジネスは、今では世界中で成長産業となりました。

これらのことを受け、未熟ながらも今のあるがままの環境保全の実態を紹介し、未来を見据えた市民、自治体、地域産業の「明るくポジティブな」挑戦を子供の世代に受け継いでもらいたい、その入り口になればという強い思いから「おもしろ環境まつり」を開催することにいたしました。

会場は 5 つのテーマで構成されます。気候変動防止と防災（災害強じん性の向上）をはじめ、エネルギー、食と水、廃棄物ゼロを目指した 3R 社会、生き物と仲良く暮らしていくための生物多様性保全とします。これまで多くの環境保全活動は「我慢」と「お金のかかる技術」が中心でしたが、「面白さ」や「楽しさ」を通じて環境保全の必要性に気付いてもらいたい、そして未来の環境技術開発や施策への意欲を刺激させたい思いを込めています。押しつけではない、子供達が自発的に「環境保全は当たり前」と言える未来を実現するため、ともに楽しみながら理解を深められるイベントを目指します。子供の意見に大人も子供も耳を傾けるため、県内児童数千名それぞれが夏休みに考えた/実践した環境に配慮した生活へのアイデア提案「わかやまこどもエコチャレンジ」の成果レポートも展示します。さらに、子供達が地元和歌山で暮らし続けたいと思えるような和歌山の魅力を紹介することにも意識します。企業や行政だけでなく、市民の草の根の活動が集い、和歌山で始まっている環境保全活動の実態を子供達に知ってもらい、体験してもらえる趣向を凝らしました。

ぜひとも、この趣旨にご賛同頂き、ご後援、ご寄附、ご出展、PR へのご協力、運営スタッフとしてのご参加、ご来場など、皆様方のご協力をお願いする次第です。

5 出展内容及び規模

5つのテーマ（①気候変動防止と防災（災害強じん性の向上）, ②エネルギー, ③食と水, ④廃棄物ゼロを目指した3R社会, ⑤生き物と仲良く暮らしていくための生物多様性保全）に関する体験型の展示（出展数約40件）, わかやまこどもエコチャレンジ

6 出展協力者

環境保全活動に取り組むNPO, 市民団体, 企業, 自治体

7 対象

小学生及び一般

入場者予想 2000名

8 主催等

○主催

おもしろ環境まつり実行委員会 [和歌山県地球温暖化防止活動推進センター, 和歌山大学, 和歌山県, 一般財団法人和歌山環境保全公社]

○協賛 株式会社オークワ, コープ自然派おおさか

○後援

環境省近畿地方環境事務所, 近畿経済産業局, 近畿農政局, 和歌山地方気象台, 和歌山県教育委員会, NHK 和歌山放送局, テレビ和歌山, 株式会社和歌山放送, NPO 法人エフエム和歌山

9 実行委員会名簿

実行委員長

中島 敦司 和歌山大学・協働教育センター（クリエ） / システム工学部

実行委員

石橋 敬三 株式会社石橋

佐藤 俊 伊都橋本地球温暖化対策協議会

樋村 健 エコネット紀中

多田 祐之 紀南地域地球温暖化対策協議会

中川 皓次 紀の川市地球温暖化対策協議会

山城 俊治 サステイナブル・フォーラムわかやま

道本 みどり NPO 法人市民の力わかやま

城 保宏 ストップ温暖化岩出の会

志場 久起 和歌山県 NPO サポートセンター

此松 昌彦 和歌山大学・災害科学教育研究センター / 教育学部

小川 真一 一般財団法人和歌山環境保全公社

飯島 孝志 和歌山県環境政策局

西出 いづみ NPO 法人和歌山有機認証協会

山田 真器子 紀の川市地球温暖化対策協議会

事務局

臼井 達也 和歌山県地球温暖化防止活動推進センター事務局

大滝 真緒 和歌山県地球温暖化防止活動推進センター事務局